

問1 未経験の技術やサービスを利用するシステム開発プロジェクトについて

プロジェクトマネージャ（PM）は、システム化の目的を実現するために、組織にとって未経験の技術やサービス（以下、新技術という）を利用するプロジェクトをマネジメントすることがある。

このようなプロジェクトでは、新技術を利用して機能、性能、運用などのシステム要件を完了時期や予算などのプロジェクトへの要求事項を満たすように実現できること（以下、実現性という）を、システム開発に先立って検証することが必要になる場合がある。このような場合、プロジェクトライフサイクルの中で、システム開発などのプロジェクトフェーズ（以下、開発フェーズという）に先立って、実現性を検証するプロジェクトフェーズ（以下、検証フェーズという）を設けることがある。検証する内容はステークホルダと合意する必要がある。検証フェーズでは、品質目標を定めたり、開発フェーズの活動期間やコストなどを詳細に見積もったりするための情報を得る。PM は、それらの情報を活用して、必要に応じ開発フェーズの計画を更新する。

さらに、検証フェーズで得た情報や更新した開発フェーズの計画を示すなどして、検証結果の評価についてステークホルダの理解を得る。場合によっては、システム要件やプロジェクトへの要求事項を見直すことについて協議して理解を得ることもある。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが携わった新技術を利用したシステム開発プロジェクトにおけるプロジェクトとしての特徴、システム要件、及びプロジェクトへの要求事項について、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べたシステム要件とプロジェクトへの要求事項について、検証フェーズで実現性をどのように検証したか。検証フェーズで得た情報を開発フェーズの計画の更新にどのように活用したか。また、ステークホルダの理解を得るために行ったことは何か。800字以上1,600字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べた検証フェーズで検証した内容、及び得た情報の活用について、それぞれの評価及び今後の改善点を、600字以上1,200字以内で具体的に述べよ。